

第16回 記者懇談会・実施要項

1 日時 平成11年6月3日(木) 15:00～

2 場所 100周年記念会館 第2会議室

3 内容

(1) 若手研究者の研究テーマとその成果の中間発表 [15:00～15:30]

・柴 健次 商学部教授

研究テーマ「相場変動とリスクの会計学」

(資料1)

・池田 勝彦 工学部助教授

研究テーマ「チタン合金、高齢化社会への応用」

(資料2)

(2) 学内情報 [15:30～16:00]

① アドミッション・オフィス方式入学試験の実施概要

(資料3)

② 大学院商学研究科のコース制導入について

(資料4)

③ 研究成果の特許申請について

(資料5)

(3) 情報交換 [16:00～16:30]

4 関西大学の出席者

石川 啓 (学長)

黒岩美智男 (企画室次長)

浦上 忠 (教学部長代理)

荒木 紀忠 (広報課長)

柴 健次 (商学部教授)

池田 勝彦 (工学部助教授)

加勢田 博 (入学試験部長)

横田 茂 (大学院商学研究科長)

5 配布資料

① 法学部の韓国・漢陽大学校とのシンポジウムの開催について

② 経済学部の韓国主要大学とのセミナーの開催について

③ 石田 浩 (経済学部教授) 著 『アジアの中の台湾－政治・経済・社会・文化の変容－』

④ 乾 昌明 (校友) 著 『スケッチ・パリを歩きま専科』

⑤ 『関西大学通信』 第272号

以上

相場変動とリスクの会計学

商学部教授 柴 健次

概要

戦後50年を振り返るとき相場の安定していた前半期と相場が激動する後半期に2分できる。その前半期の相当部分は高度経済成長期と重複しており、後半期は安定成長期を経て停滞期に突入している。

21世紀を目前に控え、日本の会計もまた大きく変貌しようとしている。その方向性を示すなら、① 規制当局・銀行向きの報告から証券市場向きのディスクロージャーへ、② 固定相場の会計から変動相場の会計へ、③ 経済成長の会計から安定の会計へ、④ リターンの会計からリスクの会計へ、⑤ 損益計算書から貸借対照表へ、といったいくつかのキーワードで表すことが可能である。

参考：拙著『テキスト金融情報会計』中央経済社（平成11年5月）。



しば けんじ
柴 健次

教授

大阪府守口市の御出身（誕生日1953年9月4日乙女座）。82年に神戸商科大学大学院経営学研究科博士後期課程を中途退学し、同年4月から大阪府立大学経済学部に勤務された。95年同大学教授。93年から94年までロンドン大学LSEで客員研究員として研究活動され、96年4月本学に教授として着任いただいた。先生の御研究は学界でも高く評価されており、92年には「金融資産の証券化と資産の認識」で日本会計研究学会賞を受賞された。写真を拝見すると、いかつい求道者のようであるが、お人柄は温和でファンが多い。そのためか、研究会が組織されると、いつの間にかリーダーにされてしまい、現在も広範な研究者ネットワークの核として御活躍しておられる。「御趣味は？」と聞いたら、「ウーン読書なんだけど、あまり一般的で面白くないからなー。何にしようー」と考えられた。何事にも真剣で凝り性なのである。

チタン合金、高齢化社会への応用

工学部助教授 池田 勝彦

高齢化が進み、60歳以上の人口が急激に増加しつつある現在、高齢者の方々にとって優しい材料を真剣に検討する時代が到来したといえる。さらに、内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）がクローズアップされ、対生体という視点から材料選択についても厳しい時代になりつつある。

主に航空・宇宙材料と注目されてきたチタン合金の、軽い、強い、さびない、生物に優しいという長所は、生体内用器具、軽量工具から装身具にいたるまで幅広く使用され始めており、高齢者の方々に使用していただく装置、器具に対して、最適の材料といえる。

このような多くの長所を持つチタン合金の用途拡大を阻害している最大の欠点は、その価格である。今回はチタン合金の持つ長所について、具体例を示しながら話を進め、最大の欠点である高コストを改善するため、私どもが行っている低素材コストを目指した合金開発について説明したいと思う。



いけだ まさひこ
池田 勝彦
助教授

1981年本学大学院博士課程前期課程修了。紫紺賞受賞。修了後大阪ヒューズ(株)に勤務され5年間電力向けヒューズ材料の研究開発に従事されていたが、86年4月より助手として来て頂いた。92年専任講師、95年4月に助教授に昇格された。小松先生の指導で主にチタン合金の相変態について研究され、その成果を学位論文「 β 型チタン合金の非熱的 ω 相に関する研究」にまとめられ、91年関西大学から工学博士の学位を授与された。現在、廉価な β 型チタン合金の開発に興味を持たれているそうである。95年度在外研究員としてロンドンのインペリアルカレッジに留学。主にチタン合金の ω 相の透過電顕観察を行う以外に、関大旅行社ロンドン支所の役も果たされたい？趣味はクラシック音楽の鑑賞と歩くこと、クラシック音楽は中学以来の足掛け30年、古典から近・現代まで、少々乱聴（調？）気味、現在ロンドン交響楽団、ロイヤルオペラの会員。歩くほうは、今のところ休業中とのこと。